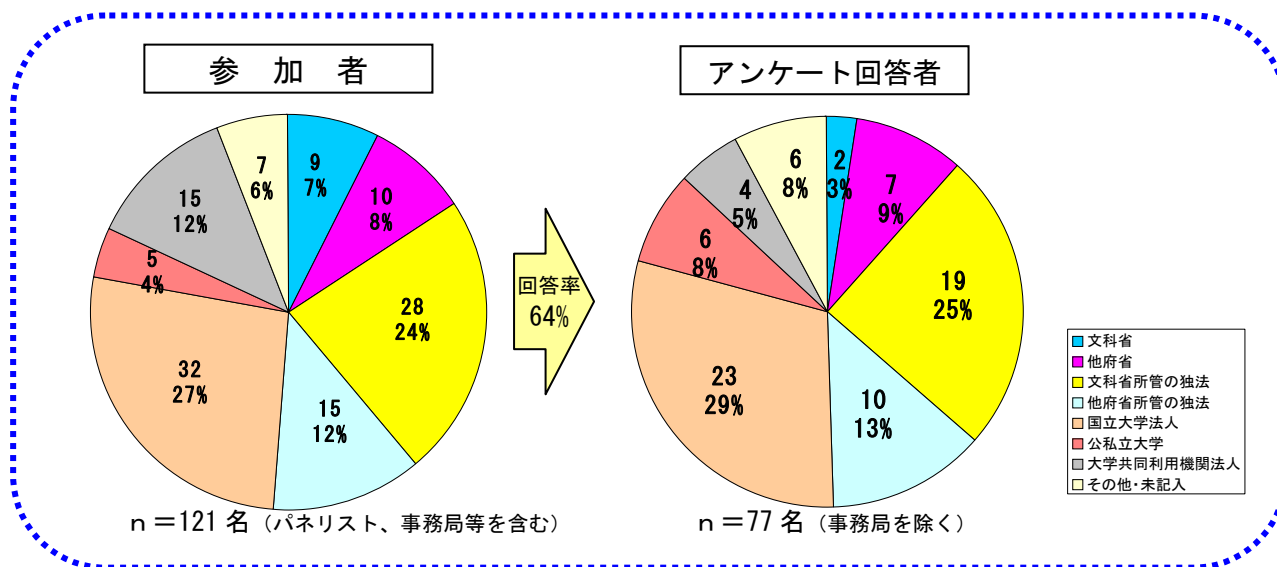


アンケート集計結果

☆☆☆ アンケート集計結果 ☆☆☆



アンケート様式

文部科学省研究開発評価シンポジウムアンケート

本日は、研究開発評価シンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。このアンケートは、今後の研究開発評価シンポジウムが、評価実務者にとって更に有意義な場になるよう、ご参加いただきました方々のご意見やご要望を伺い、今後の運営に役立ててゆくためのものです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。（回答は、該当する番号に○印を付けてください。また、記述欄へのご記入もお願いいたします。）

質問 1. あなたの所属等についてお聞かせください。

- 【所属】① 文部科学省 ② 文科省以外の府省 ③ 文科省所管の独立行政法人
④ 文科省以外の府省所管の独立行政法人 ⑤ 国立大学法人 ⑥ 公私立大学
⑦ 大学共同利用機関法人 ⑧ その他 ()

- 【立場】① 評価実務者（事務局職員） ② 評価実務者（教員） ③ 評価実務者（研究者） ④ 評価研究者
⑤ その他 ()

【現在の業務暦】() 年

質問 2. シンポジウムの内容は、あなたが仕事を進めるうえで参考になりそうですか。

- ① すぐに役立ちそうである ② すぐには役立たないが、長い目でみれば役立ちそうである
③ あまり役立ちそうにはない ④ まったく役立ちそうにはない ⑤ どちらとも言えない
理由 ()

質問 3. 新たな知見が得られましたか。

- ① まさにそう思う ② ややそう思う ③ あまり思わない ④ 全く思わない ⑤ どちらとも言えない
理由 ()

質問 4. 満足度はいかがですか。

- ① とても満足した ② 満足した ③ やや不満であった ④ 不満であった ⑤ どちらとも言えない
理由 ()

質問 5. 今後もシンポジウムに参加したいと思いますか。

- ① ぜひ参加したい ② テーマや講演者によっては参加したい ③ あまり参加したいとは思わない
④ どちらとも言えない
理由 ()

質問 6. 希望するシンポジウムの内容やテーマがありましたら、具体的にお書きください。

質問 7. 会場、実施時期、実施時間等について、ご意見・ご要望等がありましたら、具体的にお書きください。

質問 8. その他、研究開発評価シンポジウム全般に関するご意見・ご要望がありましたら、具体的にお書きください。

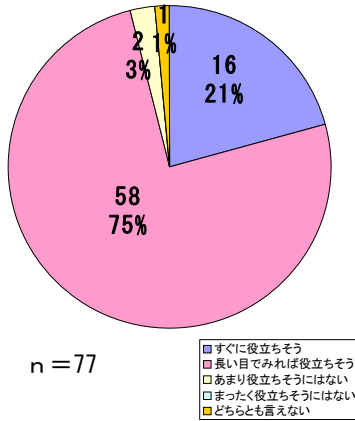
質問 9. 研究開発評価活動に対する支援策について、ご意見・ご要望がありましたら、具体的にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

1. シンポジウムに参加した感想（満足度等）

・・・主な意見・・・

仕事を進めるうえで参考に
なりそうか



<「すぐに役立つ」と回答した者>

- ◆ 今後の評価システムの設計に役立たせたい。
- ◆ 他機関の評価システムの利点、難点を理解することによって、今後
に生かせると思います。

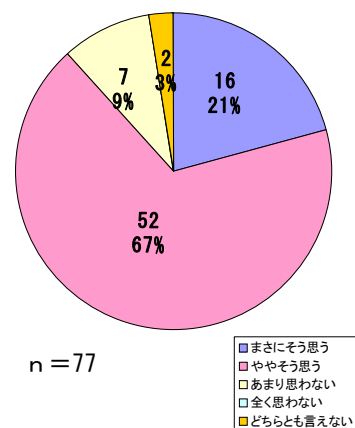
<「長い目でみれば役立つ」と回答した者>

- ◆ 理解し、各法人評価に応用するには時間がかかるかと思われるが、
有益な情報を得ることができた。
- ◆ 現在務めている部署にはあてはまる場所が少なかったが、大学運
営の今後のヒントになった。
- ◆ ディスカッションは日本の評価のあり方という大きな問題となっ
たため、改善にすぐに結びつくものではなかった。
- ◆ 「評価学」という分野をつくってみようと考えはじめた。
- ◆ 各機関の特色があり、中には参考になる事例もあった。

<「あまり役立つにはない」と回答した者>

- ◆ 事例報告はいずれも評価システムの構築に偏っており、本シンポジ
ウムのテーマである活かされる評価、すなわち check→action の具
体的事例がなくあまり役に立たなかった。

新たな知見が得られたか



<「まさにそう思う」と回答した者>

- ◆ いくつかの法人の事例を知り、今後、法人評価方法を考えるに役立
つと考える。
- ◆ 研究開発の評価のための人材育成が課題であると感じた。

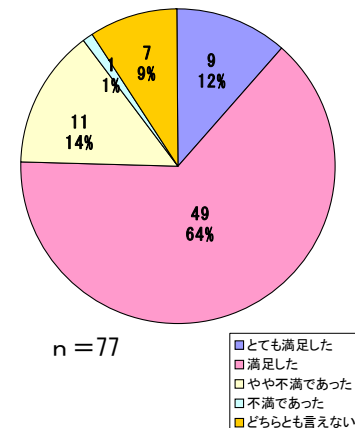
<「ややそう思う」と回答した者>

- ◆ 評価のインセンティブという視点が、今後の評価業務改善に活か
せようである。
- ◆ 研究実施機関のマネジメントをされている方の生の声を聞くこと
ができたのは、興味深かった。
- ◆ 基本的には、やるべき事は明確だが、どのように工夫して取り組ん
でいるかという点で新しい知見が得られた。
- ◆ 説明責任に新たな知見を得た。

<「あまり思わない」と回答した者>

- ◆ テーマが研究評価のあり方というより政策評価の問題点の洗い出
しとなっている。
- ◆ 国立大学法人としての総合大学における研究開発課題評価は間口
が広く、今回の事例はあまり参考にならなかった。

満足度は如何か



<「とても満足した」と回答した者>

- ◆ 今後に役立つからです。
- ◆ パネルディスカッション資料は新しい試み、素晴らしいと思った。
CDも役立つ。

<「満足した」と回答した者>

- ◆ 問題点解決の糸口がつかめたかもしれない。もう少し時間を掛けて
考えてみたい。
- ◆ 各法人が、夫々工夫して実践していることがわかった。

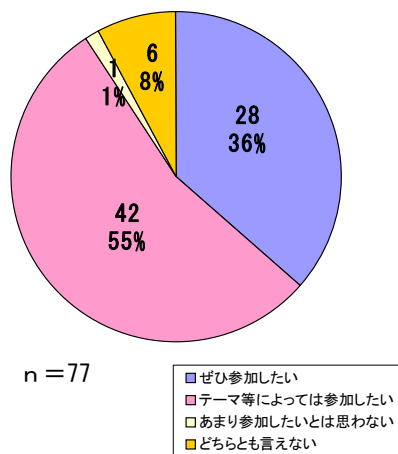
<「やや不満であった」と回答した者>

- ◆ 総論的な話が多かった。パネルディスカッションも独法評価制度の
大きな話に偏った感がある。

2. 今後の参加希望・希望するテーマ

・・・主な意見・・・

参加希望



<「ぜひ参加したい」と回答した者>

- ◆ 評価については知見を得たり、情報共有の場があまりないので、このような場は貴重だと思います。
- ◆ 他機関の事例がわかるのはありがたい。
- ◆ そもそも、どのようなことが課題になっているのかを含めて、情報収集をしていきたい。

<「テーマ等によって参加したい」と回答した者>

- ◆ 機関内で自主的に勉強するだけでは、視野が狭くなり、考え方が偏りがちになるため。
- ◆ 業務の参考になりそうなら参加する。
- ◆ 今回は非常に勉強になる点多かったが、まだ十分に消化できていない。もう少しゆっくりと分析してから今日以上のことが聴けるようなら参加したい。

<「あまり参加したいとは思わない」と回答した者>

- ◆ 大学での学生への研究指導の時間を大切にしたい。一方、「評価」に関することは研究に限らず、様々な局面でますます重要になってくるといった感じはあります。

希望するテーマ

・・・主な意見・・・ (●印：事務職員、■印：教員又は研究者、▲印：左記以外の者、の意見)

(評価人材の養成・確保)

- 研究評価にかかる人材育成方法 ■ 評価人材に必要な技能、資質について
- PD・POのあり方

(評価のあり方)

- 独法評価のあり方 ■ 国立大学法人評価の現状 ● 資金配分機関における評価のあり方
- 国・JSTなどの競争的資金をどのようなプロセス、視点で評価し、採決するか、について、事例を交えながら、具体的な内容などのテーマを希望する。

(効果的・効率的な評価システムの構築・運用)

- ▲ 企画・立案と評価
- ▲ 研究開発評価とマネジメントとの連携に関するテーマで企画してほしい。
- 参加型の目標設定と評価への反映について (エコトピア研のような)
- ▲ どのように効果的に一貫性をもたせてゆけるか。
- ▲ 個人評価、組織評価、法人評価の関連性
- 法人・認証・研究・その他などの一元的にできるもの

(評価方法)

- アウトカムをどうとらえればいいのか。 ● 追跡調査、アウトカム評価について
- 基礎研究、基盤研究におけるアウトカム・インパクトとは具体的に何か (事例)
- 理想的なポテンシャルマップの例 ● 経済的、社会的視点の評価の仕方・手法
- ▲ もう少し具体的な評価手法の話を聞きたい。 ● エフォートを研究評価の材料とすべきか。
- パネルレビューの(効果的な)設計要件について
- 外部評価、特に専門家の少ない分野における人選について
- 研究開発評価の事前・事後評価の具体的な例紹介。例えば、研究水準の考え方など。
- 教育活動を同時にすすめなければならない。大学での研究、個人の基礎研究についてどのように評価をしていくべきか。
- 国立大学法人としての研究開発課題評価に関して企画、事例報告等があれば参加したいし、是非、企画してほしい。
- 個人の業績評価

3. 「シンポジウム全般」及び「研究開発評価活動に対する支援策」に関する意見等

シンポジウム全般

・・・ 主な意見 ・・・ (●印：事務職員、■印：教員又は研究者、▲印：左記以外の者、の意見)

(場所)

- ▲ 東京がのぞましい。(多数) ●■▲ 東京駅近くで便利。適当。(多数)
- ▲ 東京以外で開催、その機関の見学も含めると良い。

(時期・時間)

- ▲ 適当。現状でよいと思う。(多数) ▲ 1～3月はやめてほしい。 ▲ 事例紹介が長い
- もう少し短い方が参加しやすいかも知れません(実例紹介の方法を工夫するなどして)
- ▲ 質疑・応答時間が短くて質問したくてもできません。

(内容)

- やや総論的で内容が絞られておらず、残念。 ■ 具体的な実例的なものがもう少し欲しい。
- 内閣府・文科省・経産省・総務省等主催を変えて、幅広い評価について議論したらどうだろう。

(実施方法)

- 法人により、基礎研究、プロジェクト型、フィンディングと性格が異なるので、共通で応用のきくもの、その法人特有のもの、等の類別をしていただけると助かります。
- 評価実務者同士が、互いの評価システムについてプレゼンし、問題点や長所を意見交換する場があればいいし、又、ある仮想研究所(様々な条件を設定)に対しての評価システムを設計していくような研修があれば楽しいと思う。

(その他)

- 評価実例集がCD-Rで配布されたのは、大変よい試みと思います。
- これらの分類抽出をなんらかの形で今後も情報発信していただきたい。
- ▲ 各機関が評価に要して労力(例えば、人員数×時間)とその機関の全体活動(時間)との割合を検討する必要がある。

研究開発評価活動に対する支援

・・・ 主な意見 ・・・ (●印：事務職員、■印：教員又は研究者、▲印：左記以外の者、の意見)

- 評価者が一定の期間、評価に時間を割ける(評価に専念できる)体制作りの支援(例えば、大学における教育 duty 代替要員の手当て)。評価者自身の研究開発活動を一定程度担保する策の考案。
- ▲ 評価活動に関しては、手間隙がかかるため、その予算等をサポートしてほしい。
- ▲ 評価学も含まれると思うが、科学技術政策研究をもっと、日本でも体系化し、しっかり学べ、研究が成り立つ(研究者としての職が確立する)ようにすべき。
- 評価人材の育成が重要である。裾野を広げないと文化が形成できない。
- 文科省内外の職員の方の意識改革もお願いしたいところである。
- よりよい評価システムを作るために、評価システムの指導(アドバイス)をいただけたらありがたいです。
- ▲ もっと文部科学省が前面に出て、はっきりとした道筋を見せるべき。
- これらの分類抽出をなんらかの形で今後も情報発信していただきたい。
- 文科省所管以外の独法等の研究評価についても、ぜひ、グッドプラクティスの調査分析をしていただければありがたい。
- 一般的に言われるアウトカムが出ないような研究が多々あります。これらの評価をどの様な観点で実施すれば良いのか。
- 投入されている税金の額と研究成果との妥当性を評価するシステムも必要かと思います。
- 評価用語集が欲しい。専門用語が増え、その意味のとり方が人によって異なり、共通認識が不十分である。